

女性研究者の活躍の場を広げる ～「国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラム」の取り組み～

(一財)国際開発センターは現在、「文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の中で実施されている「国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラム」(2017～2022年度)の取り組みに参画しています。

このプログラムは、国立大学法人・広島大学が代表機関となっており、マツダ(株)、デルタ工業(株)、そして当センターとの共同で実施しているものです。グローバルな視野を持ち、先端的研究課題に挑戦する女性研究者の育成と研究環境の整備を目標としており、同時に女性研究者採用の増加と上位職への積極的な登用、理工農学系女性研究者の量的・質的の拡充も目指しています。研究開発と人材育成の中核を担う国立大学とものづくり企業との産学連携に対して、当センターが国際協力の知見を融合させています。

上述の目標を達成するため、このプログラムでは、大きく4つの柱—「1. ダイバーシティ研究環境整備強化」、「2. 女性研究者の研究力向上とリーダー育成」、「3. 女性研究者の積極採用と上位職登用」、「4. ダイバーシティ研究環境実現モデル開発」の下で、次のような取り組みを実践してい

ます。

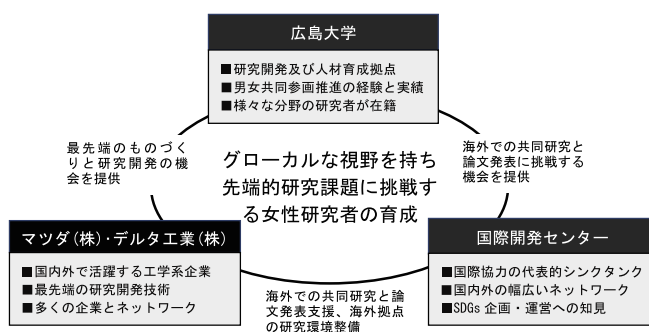
国際開発センターでは、2017年度に「1. ダイバーシティ研究環境整備強化」に関連して、米国・ボストンの大学での好事例についての調査を実施しました。マサチューセッツ工科大学、ハーバード大学、ボストン大学、ノースイースタン大学の4大学を対象に、特にSTEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) 分野の学生や教員の男女共同参画・多様化を推進する担当者や、裾野を広げる目的で実施されている高校生対象のサマープログラムの担当者など合計9人を訪問してインタビュー調査を行いました。マサチューセッツ工科大学やハーバード大学

では、女性教員数の増加を積極的に進めており、特にハーバード大学では女性だけでなくマイノリティの教員を増やすことにも成果を挙げています。また、ボストン大学やノースイースタン大学では、若手女性研究者が自信をつけられるようにメンター制度を導入したり、女性研究者ネットワークの強化などに力を入れていることもわかりました。その後、調査結果の

詳細を各実施機関と共有して意見交換を行いました。今後はダイバーシティ研究環境整備の観点から、訪問した大学との交流活動や共同研究の実践につなげていきたいと考えています。

2018年度には、国内の大学や研究機関の好事例の調査、組織の上位職を対象とする意識啓発のためのセミナーの企画・運営なども実施する予定です。また、当センターとしても女性研究職員や女性管理職の割合の増加を目指し、具体的な数値目標を掲げて取り組みを進めており、ダイバーシティ研究環境の実現を図っています。

(文責：国際開発センター 主任研究員
鶴峰 美千子)



(「文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)2017年度事業成果報告書」をもとに作成)

1. ダイバーシティ研究環境整備強化	●各機関が独自の取り組みを継続的に実施するとともに各機関間で共有 ●国内外でダイバーシティ研究環境整備に関する好事例を調査 ●各機関の上位職を対象とした意識啓発活動
2. 女性研究者の研究力向上とリーダー育成	●女性研究者に先端的な研究課題に挑戦する機会を提供 ●女性研究者の国際的な研究活動、成果発表を促進 ●リーダー育成セミナー、外部資金獲得セミナー等の研修を実施
3. 女性研究者の積極採用と上位職登用	●ポジティブアクションの強化 ●広島大学での学び直し、学位取得によるキャリアアップの促進 ●研究者を目指す女性大学生の裾野拡大
4. ダイバーシティ研究環境実現モデル開発	●産学官ダイバーシティ推進協議会メンバー機関を対象とする調査や、取り組み1～3の効果の検証を通して、業種や機関の特徴に応じたモデルの開発・普及